

## 平成9年度標準化功績賞・標準化貢献賞の表彰

本学会情報規格調査会では、平成7年度より標準化功績賞・標準化貢献賞の2つの表彰制度を設けています。標準化功績賞は、長年にわたり情報規格調査会委員および所属委員会委員として、多大な功績があった方々の中から選ばれます。また、標準化貢献賞は、最近の数年間において、所属委員会委員として、顕著な貢献のあった方々の中から選ばれます。

なお、本学会情報規格調査会規程により、平成9年度は1997年7月14日に開催された第12回規格総会で、受賞者に表彰状、賞牌または賞金が授与されました。

### ●標準化功績賞



日本板硝子株式会社 三橋 慶喜君

三橋慶喜君は、1984年に発足したISO/TC97/SC23の設立に際して中心的メンバーとして尽力されました。また、SC23国際議長およびSC23専門委員会委員長として長年にわたり光ディスク標準化の推進にあたられました。

この間、3件の130mm光ディスクと、3件の90mm光ディスクの日本提案を国際規格にされました。

これらの業績は、当調査会ひいては我が国の情報技術標準化の進展に寄与するところが大きかったです。



東京大学 安田 浩君

安田浩君は、1986年から現在に至る11年間の長きにわたり、ISO/IEC JTC1/SC2/WG8コンビーナおよびSC29国際議長として、マルチメディア技術の中核となるJPEG、MPEG-1、MPEG-2等の国際規格をまとめられました。

これらの業績は、1996年10月に標準化機関として初のエミー賞受賞に結びつくなど、情報技術分野の標準化に大きな功績がありました。

これらの業績は、当調査会ひいては我が国の情報技術標準化の進展に寄与するところが大きかったです。

### ●標準化貢献賞

東北大学 伊藤 貴康君

伊藤貴康君は、プログラミング言語の国際標準としては、初めて日本提案をもとに作成されたISLISPの国際規格作成に、指導的役割を果たされました。

また、専門委員会関係では1987年SC22/LISP WG発足以来、長年にわたり主査として核言語KLを設計することを提案し、設計方針を定めて言語設計とその改訂の指導に尽力されました。

株式会社日立製作所 小池 建夫君

小池建夫君は、ISO/IEC 10646-1 UCSのUnified CJK Ideographsおよび拡張集合の作成基準のエディタを担当され、大いに国際場で活躍されました。

また、専門委員会関係では漢字標準化専門委員会幹事、引続きSC2/漢字WG幹事およびSC2委員等として主導的役割を果たして来られました。

日本電信電話株式会社 川口 博司君

川口博司君は、1991年から現在に至る6年間の長きにわたり、私設統合サービス網関連の国際プロジェクトエディタとして貢献されました。

また、専門委員会関係ではSC6/WG6幹事およびSC6/WG6/ナローバンドSG委員として長年にわたり活躍されました。

日本電気株式会社 込山 俊博君

込山俊博君は、1992年から現在に至る5年間にわたりISO/IEC JTC1/SC7/WG6のセクレタリを担当され大いに国際場で活躍してこられました。

また、専門委員会関係ではSC7/WG6幹事およびSC7/WG10委員を務められ、ソフトウェア品質評価関連の規格を日本から提案することに尽力されただけでなく、これらの規格の日本工業規格化にも大きく貢献されました。

日本ヒューレット・パカード株式会社 佐藤 敬幸君

佐藤敬幸君は、1994年から現在に至る3年間にわたりISO/IEC JTC1/SC22/WG20のTR11017国際化フレームワークのテクニカルエディタとしてその任務を立派に務められました。

また、専門委員会関係では国際化専門委員会委員長、引続きSC22/国際化小委員会主査とSC2およびSC2/漢字WG委員等として主導的役割を果たしてこられました。

社団法人情報処理学会情報規格調査会 広瀬なるみ君

広瀬なるみ君は、1991年から現在に至る6年間の長きにわたりISO/IEC JTC1/SC18/WG4およびSC29のセクレタリとして、マルチメディア技術の中核となるJPEG、MPEG-1、MPEG-2等の国際規格のとりまとめに貢献されました。

これらの業績は、1996年10月に標準化機関として初のエミー賞受賞に結びつくなど情報技術分野の標準化に大きな貢献がありました。

株式会社日立マイクロソフトウェアシステムズ

宮本 和靖君

宮本和靖君は、1986年から現在に至る11年間の長きにわたりSC7専門委員会ならびにSC7/WG11小委員会委員としてプログラムの図形表現の標準化を推進されました。

特に、状態遷移図の国際規格の制定に日本の意見を反映させる等、ソフトウェアエンジニアリング全般にわたって国際規格の審議制定に大いに貢献されました。

日本ユニシス株式会社 (CALS 技術研究組合)

若鳥 陸夫君

若鳥陸夫君は、1981年SC18専門委員会設立当初より現在に至る16年間の長きにわたり同委員会委員として開放型文書体系の国際標準化に多大の尽力をされてこられました。

また、日本語機能に関する調査研究委員会において、各種の規格間にまたがる日本語機能の統一的な取り扱いに関する多数の有効な提案をされ活躍されました。

富士通株式会社 (財団法人 日本電気用品試験所)

多羅尾 悌三君

多羅尾悌三君は、1972年から1994年までの22年間の長きにわたり磁気記録媒体の標準化の活動に参加され、主として磁気テープの国際標準化に大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では長年にわたりSC11委員およびSC11/MT-WG主査として活躍されました。

筑波大学 穂鷹 良介君

穂鷹良介君は、1994年から現在に至る3年間にわたり概念スキーマモデル機能に関する国際プロジェクトエディタとして活躍され、データベース関連の標準化における日本の国際的役割を高められました。

また、専門委員会関係では1985年SC21設立当初よりSC21委員およびSC21/WG3主査として委員会のまとめ国際対応に貢献されました。

日本アイ・ビー・エム株式会社 三和 邦彦君

三和邦彦君は、1994年から現在に至る3年間にわたり90mm光磁気ディスクの容量640MB第3世代媒体の国際規格ISO/IEC 15041のエディタを担当され大いに国際的場で活躍されました。

また、専門委員会関係ではSC23、SC23/WG2およびSC23/WG6の委員として活躍されました。